

TurboHAMLOG入力とQSLカード印刷出力一覧表

入力画面 [A]

※ ! = 各種項目、? = 条件命令

条件命令の間には、空白を入れても入れなくてもかまいません。

コールサイン(Call)

QSLカード印刷出力コマンド

入力例

JO1NDG

!cp 半角J-呼称/移動地 (JG1MOU/KH6)
!CP 全角J-呼称/移動地 (JG1MOU/JD1)

JO1NDG/1

!PT 移動地 (北海道なら **8** または **JA8**)

JO1NDG/QRP/1

!C1 JARL枠1文字目 (全角文字。以下同じ)

JO1NDG/S2005/1

!C2 JARL枠2文字目

JO1NDG/BY1

!C3 JARL枠3文字目

BT1/JO1NDG

!C4 JARL枠4文字目

初期値10バイト

!C5 JARL枠5文字目

最適18バイト

!C6 JARL枠6文字目

!C7 7文字目 (**!C1** ~ **!C9** まで同様)

!C0 10文字目

!c1 JARL枠1文字目 (半角文字。**!c1**~**!c0**まで同じ)

※ 他の変数や文字を混ぜなければ、全角のゼロの場合に/が上書きされます。 ("!C1 !C2"のように続けなければ)

※ **QSL**の項目の1文字目に **M** と入力されており、Remarks 1・2のどちらかに **@JG1MOU** のように入力されていれば、QSLマネージャー経由と判断し、そのコールサインを印字します。QSLマネージャーのコールサインは、@に続けて3文字以上の英数混在の半角大文字である必要があります。

? Potbl 移動局であれば、この次の一行を実行します。

? Club

相手がクラブ局であれば (サフィックスが**Y**か**Z** で始まる3文字であれば)、この次の一行を実行します。(ただし、国内局のみ)

DX : ボックス**Q S Lカード印刷出力コマンド**

DX局の時に使用。エンティティをセット出来る。

? DXST

相手がDX局であれば（入カウインドウの**DX**にチェックして保存したデータ）、この次の1行を実行します。

※ DX局でコールサインに/がある場合の取扱いについて（重要です） ※

※DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするに**チェックが入っている**場合

例えば、 AA1BB/W6 8Q7/AA1BB AA1BB/6 AA1BB

これらは別々のコールサインとして扱われます。

従って、AA1BB/2と入力すると、1 s t -QSOとなります。

国内QSO専門の方は、**DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックする**にはチェックが入ったままで問題ないでしょう。

/を含むコールサインでJPEG画像にヒットさせる場合は、AA1BB 2.jpgのように/をスペースにしてファイルを保存してください。

/を含むコールサインでコールテキストにヒットさせる場合も、AA1BB 2.txtのように/をスペースにしてファイルを保存してください。

※DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするに**チェックが入っていない**場合（推奨）

例えば、 AA1BB/W6 8Q7/AA1BB AA1BB/6 AA1BB

チェックが入っていない場合は、これらはすべてAA1BBというコールサインでヒットして、5回目のQSOとなります。

この場合のコールサインの判断は、次のようにプログラムしています。

【例1】 AA1BB/KH6 … AA1BBがコールサイン

【例2】 8Q7/AA1BB/QRP … AA1BBがコールサイン

【例3】 AA1BB/BY1AA … AA1BBがコールサイン

【例4】 AA1BB/BY1AAA … BY1AAAがコールサイン

つまり、最初に現れる/の左側と右側の文字列の長さを比較し、長いほうの文字列をコールサインとして検索しています。（※CTY.DAT）

ただし、長さが同じ場合は左側をコールサインとして検索します。

従って、例4のような場合で、実はAA1BBがコールサインだとしたら、右側を意図的に短くするしかありません。（※エンティティの判断）

ここのチェックの有無は、コールサインによる検索（部分文字列検索を除く。）すべてに影響します。

変換開始ボタンをクリックすると、実行します。変換終了後は、Turbo HAMLOG/Winが終了します。

今までの **HAMLOG.HDB**は、**HAMLOG.\$DB**にリネームされて残っています。

少しでもDXをされる方は、**DX局のコールサインは、/を含めてデュプチェックするのチェックを外しておく**ことをお勧めいたします。

もちろん、DX局とのQSOでは、コールサイン欄の上にあるDXのチェックボックスをチェックしてください。

交信年月日(D)	Q S Lカード印刷出力コマンド
yy/mm/ddの順で入力	!DY 4桁の年
※通常は、「自動入力」	!Dy 2桁の年
	!DM 月 (01~12)
	!Dm 月 (1~12)
	!DJ 月 (Jan~Dec)
	!DD 日 (01~31)
	!Dd 日 (1~31)
	!DT 年月日 (yy/mm/dd)

交信時刻(T)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Timeは、時間 2 桁 : 分 2 桁と J:JST か U:UTC 。	!Th 時 (0~23)
※通常は、「自動入力」	!TH 時 (00~23)
	!Tm 分 (0~59)
	!TM 分 (00~59)

※年月日時分は、JSTで入力されてあっても、入力ウィンドウのDXにチェックが入力されてある交信相手は、自動的にUTCに変換されて印刷します。

? UTC UTCであれば、この次の一行を実行します。

His (H)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Hisは、相手局のRS(T)レポート。	!HR 相手局のRSTレポート
初期値 3 バイト	!hR 相手局RSTのRのみ (了解度)
最大 1 2	!hS 相手局RSTのSのみ (信号強度)
	!hT 相手局RSTのTのみ (トーン)

My (M)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Myは、自局の貰ったRS(T)レポート。	!MR 自局のRSTレポート
初期値 3 バイト	
最大 1 2	

FreQ (F)	Q S Lカード印刷出力コマンド
FreQは、交信周波数。 初期値 7 バイト 最大 1 6	<p>!FR ピリオド前、または空白前までの周波数文字列 (430.210 → 430)</p> <p>!F7 周波数を指定したバイト数出力 (!F4で4バイト/!F3~!F9では3~9バイト出力/!F0~!F2では10~12バイト出力)</p> <p>!Fr 100Hz単位や10Hz単位で入力してあっても、kHz単位までを出力 (7.01234 → 7.012)</p> <p>!Bt 送信波長 (7MHz帯では40m、50MHzでは6m) ※波長はADIF仕様のとおり</p> <p>!Br スプリット運用時の受信波長 (144/430では70cm、430/1200では23cm)</p> <p>? Freq n</p> <p>n は周波数帯を示す数値です。各周波数帯ごとの数値は、次のとおりです。</p> <p>1.9MHz=1 3.5MHz=2 7MHz=3 10MHz=4 14MHz=5 18MHz=6 21MHz=7 24MHz=8 28MHz=9 50MHz=10 144MHz=11 430MHz=12 1200MHz=13 2400MHz=14 5600MHz=15 SATELLITE=17 その他又は認識できない=16</p> <p>【例】 ? Freq 3</p> <p>#Print 100, 300, "40m Band"</p>

Mode(M)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Modeは、電波型式。 初期値 4 バイト 最大 1 6	<p>!MD 電波型式</p>

Code(e)	Q S Lカード印刷出力コマンド
Codeは、JCC/JCG/行政区/町村/DXコードを最大6バイト入力する事が出来る。 Fキーで、検索可。 市: [F5]、群: [F6]、 区: [F7]、町: [F8]、 村: [F9]	<p>!JC 相手のJCC/Gコード</p> <p>!Jc 相手のJCC/Gコード (町村の場合はJCGコードに変換される)</p>

G・L(G)	Q S Lカード印刷出力コマンド
グリッドロケーター : 6バイト入力	<p>!GL 相手のグリッドロケーター</p>

QSL(L)	QSLカード印刷出力コマンド
QSL情報	? Rcv QSL受領済みであれば、この次の一行を実行します。
J: JARL経由で交換	? QslM QSLマネージャー経由 (QSL欄の1文字目が M) であれば、この次の一行を実行します。
D: ダイレクトで交換	
N: NoQSL	? Qsl1 "n" QSL欄の1文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
M: QSLマネージャー経由で交換	? Qsl2 "n" QSL欄の2文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
E: mQSL経由で交換	? Qsl3 "n" QSL欄の3文字目がnであれば、この次の一行を実行します。nは任意の1文字です。
: 3バイト入力	
1文字目: 方法	【例】 ? Qsl3 "E"
2文字目: 発行	#Print 130,800,"電子QSL受領済みです。"
3文字目: 受領	

CQ: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
自局のCQ及びCQへの応答で交信が始まった。	? CQde 呼ばれた場合、または自局のCQで始まったQSOであれば (入力ウィンドウのCQにチェックをいれて保存したデータ)、この次の1行を実行します。

1: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
	? Check1 入力ウィンドウの1や2にチェックが入っていれば、この次の1行を実行します。 Check1 と Check2が使用できます。

2: ボックス	QSLカード印刷出力コマンド
	? Check2 ? Check1と同じ

相手の名前(N)	QSLカード印刷出力コマンド
交信相手の名前。	!NA 相手の名前
初期値 1 2バイト	? Name
最大 6 4	氏名が入力されてあれば、この次の一行を実行します。

相手の名前QTH(Q)	QSLカード印刷出力コマンド
交信相手の発信場所。	!QT 相手のQTH
初期値 2 8バイト	
最大 1 2 8	

Remarks 1**Q S L カード印刷出力コマンド**

備考として使用。

初期値 5 4 バイト

最大 2 5 4

!r1

Remarks 1 の文字列全部。但し、文字列右側の空白はカットします。

!R1 Remarks 1 に記入した文字列のうち、%と%で括った文字列。%文字列%が存在しなければ、何も印字しません。

!Rp

Remarks 1 に記入した%と%で括った文字列と、Remarks 2 に記入した%と%で括った文字列を連結します。

例えば、Remarks 1 に%文字列%と、Remarks 2 に% A B C %と入力してあれば、**文字列 A B C**と印字します。

【例】 ? Space! "!Rp" ; 空白でなければ

```
#PrintA 50,800,10,"!Rp移動"
```

!R1,n1,n2

Remarks 1 の **n1**バイト目から **n2**バイト目の文字列。**n1**はゼロから数えます。数字は二桁で指定し、空白は入れないで下さい。

【例】 ・ ・ Remarks 1 を 6 バイト目から 2 2 バイト印字します。

```
#Print 50,850 "!R1,06,22"
```

!R1\$A

Remarks 1 に記入した文字列のうち、\$A=**文字列** \$の文字列。**\$A~\$Z**が使えます。

【例】 ・ ・ Remarks 1 に \$R=TS-520\$ のように記載があれば、TS-520と印刷する。

```
? Space! "!R1$R"
```

```
#Print 100,900 "使用リグは!R1$Rです"
```

!R2\$Z

Remarks 2 に記入した文字列のうち、\$Z=文字列\$の文字列。Remarks 1 と同様です。

? RmStr "文字列"

指定した文字列が、現在読み込んであるQSOデータ中のRemarks 1 か Remarks 2 に存在すれば、この次の一行を実行します。

文字列中には、**!**で始まる変数が使えます。

【例】 #Mov \$\$F="Turbo"

```
? RmStr "!$$F HAMLOG"
```

```
#Print 100, 500, "Turbo HAMLOGをお使いですね"
```

Remarks 2	Q S Lカード印刷出力コマンド
------------------	-------------------------

備考として使用。
初期値 5 4 バイト
最大 2 5 4

!r2 Remarks 2 (!r1と同じ)
!R2 Remarks 2 (!R1と同じ)
!R2,n1,n2
Remarks 2 の **n1**バイト目から **n2**バイト目までの文字列

Rig/Ant設定画面

No	Freq	Rig	Power	Ant	High	Rmks	Location	Etc
1	430	IC-9700	50	GP	24			
2	144	IC-9700	50	GP	24			
3	1200	IC-9700	10	GP	24			
4	7	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
5	14	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
6	18	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
7	21	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
8	24	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
9	28	IC-7300	50	T512GX-3040	11			
10	50	IC-7300	50	HB9CV:4ere	23			
11	144	IC-9700	50	12X2	14			
12	430	IC-9700	50	SS4160(40X2X2)	22			
13	1200	IC-9700	10	27X2	11			

コメント(S)	Q S Lカード印刷出力コマンド : !RG ~ !Et は、Rig/Ant設定の内容
----------------	--

Freq
Rig **!RG** 自局の R I G (Rig欄)
Power **!Pw** R I Gの終段入力、または空中線電力等 (Power欄)
Ant **!AN** 自局のアンテナ (Ant欄)
High **!Hi** アンテナの地上高 (High欄)
Rmks **!Rm** バンド毎のコメント (Rmks欄)
Location **!Lc** 自局の運用地など (Location欄)
Etc **!Et** バンド毎のコメント・その他 (Etc欄)

!Co 印字確認時のコメント

その他(E)	QSLカード印刷出力コマンド
--------	----------------

QSL# **!NO** レコードナンバーです。(QSOデータの通し番号です。)
!NO+2000のように記述すると、実際のレコードナンバーより 2,000多い数字を印字します。
!NO-1500のように記述すると、実際のレコードナンバーよりも1,500少ない数字を印字します。
!No : !NOと同じですが、数字3桁ごとにカンマが入ります。
なお、本ソフトではQSL番号というものは管理できません。(QSL番号用の項目がありません。)

使用中のTurboHAMLOG **!Vr** Turbo HAMLOG/Winのバージョン
!Nw 今日の年月日 【例】 08/Aug/2018
!NW 今日の年月日 【例】 2018/09/01
!nW 今日の年月日 【例】 2018-12-09

#MOV命令 (メモリー #) **!\$\$A**
[#Mov命令で代入した文字列や数値を記憶しています。](#)
\$\$A~\$\$Tが文字列用で、**\$\$U~\$\$Z**が数値用として使えます。

QSOデータに特定の文字列(D)

? Data1 "文字列"
現在読み込んであるQSOデータ中に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。
Data1 ~ Data14が指定できます。
Data1はコールサイン、**Data2**は日付、**Data3**は時間、**Data4**はHisRTS、**Data5**はMyRTS、**Data6**はFreq、**Data7**はMode、**Data8**はCode、**Data9**はG/L、**Data10**はQSL、**Data11**は氏名、**Data12**はQTH、**Data13**はRemarks1、**Data14**はRemarks 2 (以上、メインウィンドウの並びのとおり) 文字列中には、**!**で始まる変数が使えます。
【例】 **? Data7 "SSTV"**
#Print 150, 400, "FBな画像を有難うございます。"

? nData13 "文字列1,文字列2,文字列3,文字列4,文字列5"
カンマで区切った文字列のいずれかが、現在読み込んであるQSOデータ中に存在すれば、この次の一行を実行します。
文字列1、文字列2、文字列3. . . の順で探します。
カンマで区切った文字列は、CSVファイルの1行と同じフォーマットです。
それ以外は、**Data1 ~ Data14**と同様です。
【例】 **? nData7 "FT4,FT8,JT65,JT9"**
#Print 150, 250, "dB"

変数に特定の文字列

#MOV命令 (メモリー #) ? \$\$A "文字列"

文字列変数に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。
\$\$A ~ \$\$Tが使えます。

特定の文字列 (その他)

? Space "空白文字列"

文字列が空白であれば、この次の1行を実行します。この例では、Rig/Ant設定でアンテナの地上高が入力されていれば、アンテナを印字します。文字列中には、!で始まる変数が使えます。

【例】 ? Space! "!Hi"

```
#Print 80,800,"!HimH !AN"
```

UserLIST関係

? User

相手のコールサインがHAMLOGユーザーリストに存在し、かつ、HAMLOGユーザーリストを開いていれば、この次の1行を実行します。

? End

条件命令の終わりを指定します。これにより ? 条件命令 と ? Endの間に、複数の命令を記載できます。

ただし、? 条件命令 と ? End の途中でネストして ? 条件命令 を記載することはできません。

次のように? 条件命令 を続けて記載すれば、AND条件となりますのでOKです。

【例】 ? Freq 3 ; 7MHzで かつ

? RmStr "湯-" ; 温泉移動局だったら

```
#Print 10, 40, "!NAさん、湯加減はいかがでした?"
```

```
#Print 10, 90, "また!FRMHzでお会いしましょう!"
```

? End ; ?RmStrの終わり

条件命令に !を付ければ意味が逆になります。(? Endを除く) 例えば、 ? UTC! では、JSTであれば次の1行を実行します。

条件命令の行を続けて記述すると、AND条件で次の行を実行します。例えば、次の例ではDX局でNAME欄が入力してあれば、"FB DX Dr 名前"と印字します。

? DXST

? Space! "!NA"

```
#Print 100,500, "FB DX Dr !NA"
```